

なつ やそう 夏の野草

❀ キキョウソウ

キキョウ科の植物。別名「ダندانキキョウ」と

いう名前のとおり、1本の莖に丸葉と花を交互に

付けます。春には開かない花（閉鎖花）が成り、

6月になると紫の花を咲かせます。



❀ キキョウ

キキョウ科の植物。秋の七草の1つに入っていますが、

花は6月～9月にかけて咲きます。平安時代の書物

にキキョウについて記述があるほど、古くから

日本人に身近な花です。また、武士が家紋に使用

したり、江戸城内で部屋や門の名前として使用され

るなど、日本の文化に密接に関わっています。



❀ ムラサキカタバミ

カタバミ科の植物。原産地は南アメリカ

ですが、江戸時代に鑑賞用として輸入され、

その後繁殖したといわれています。花は朝に

なると開き、夜になったり、雨が降ると下を

向いてしぼむという習性があります。



❁ ユキノシタ



ユキノシタ科の植物。下に向いた2枚の花びらが
大きいのが特徴です。名前の由来は諸説あり、
雪のような白い花の下に葉を広げるから（雪の下）、
下に垂れた花びらが舌を出しているように見える
ことから（雪の舌）などいわれています。また、
一年中食べられる山菜としても用いられています。

❁ ドクダミ

ドクダミ科の植物。白い部分は花びらではなく

花びらを支えている総苞片という花を支える葉です。

雌蕊に見えるところが花の集合体になっています。

ドクダミという名前は「毒を矯める（止める）」と

いう効果からこの名前が付けました。



❁ キツネノマゴ

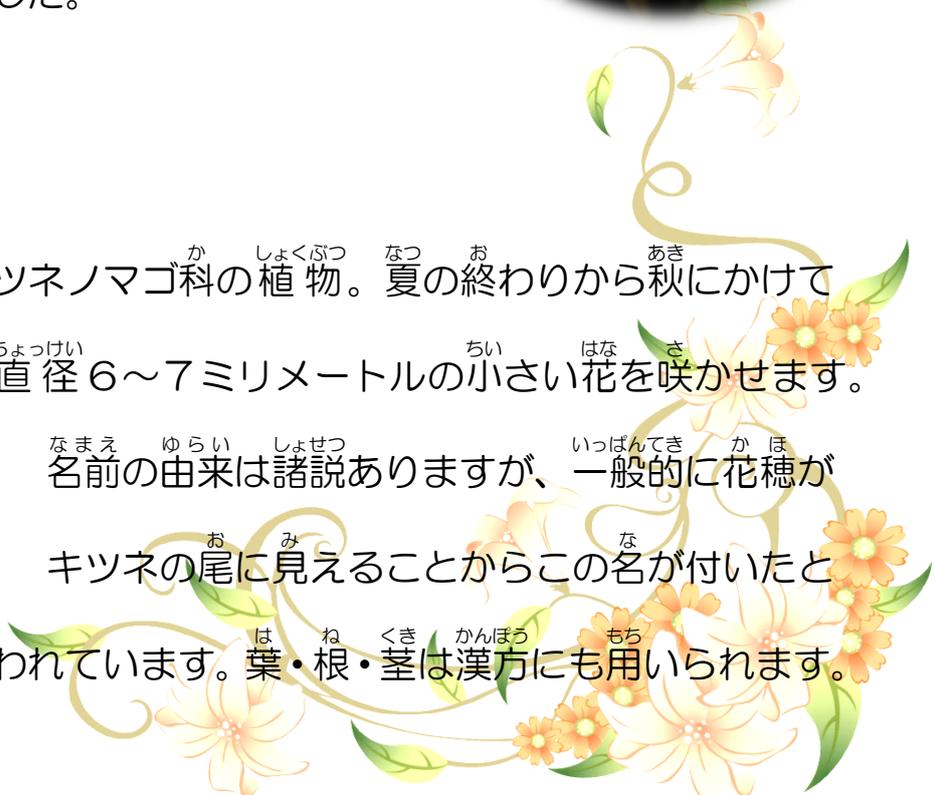
キツネノマゴ科の植物。夏の終わりから秋にかけて

直径6～7ミリメートルの小さい花を咲かせます。

名前の由来は諸説ありますが、一般的に花穂が

キツネの尾に見えることからこの名が付いたと

いわれています。葉・根・茎は漢方にも用いられます。



❁ アヤメ

アヤメ科の植物。「いずれアヤメかカキツバタ」

ということわざからも分かるように、アヤメ、

カキツバタ、ハナショウブは大変似ています。花びら

の弁元が縞（文目）模様になっているのがアヤメ、

白い目型の模様があるのがカキツバタ、黄色い

目型の模様があるのがハナショウブです。

花の違いに注目しながら探してみましょう。



↑アヤメ



↑カキツバタ



↑ハナショウブ

❁ ヤブミョウガ

ツククサ科の植物。群生して生える様子が藪に

見えることと、ミョウガと葉の形が似ている

ことが名前の由来になっています。

花はアサガオのような一日花で、朝に咲き、

夕方にはしおれてしまいます。



❁ ホタルブクロ

キキョウ科の植物。花の形から別名、

「ツリガネバナ」ともいわれます。名前の由来

は、子どもが花に蛍を入れて遊んでいたから、

提灯の古名「火垂る袋」が転じたからと諸説あります。

